

■井上清直 幕末の外国からの圧力に、日本を守るべく岩瀬忠震の頭脳を生かし、ハイレベルの実務で開国を推進。

いのうえきよなお

浮世風呂 1809 = 江戸下谷で、幕臣内藤家の次男に生まれる。川路聖謨の弟。

幼くして、井上家の養子となる。

水野忠成老中 1818 = 9歳 :

異国船打払令 1825 = 16歳 : 初出仕し、

日本外史 1827 = 18歳 :

幕府評定所書物方、

勘定所留役助、

1836 = 27歳 :

大塩平八郎乱 1837 = 28歳 :

寺社奉行付調役などを経て、

阿部正弘首座 1845 = 36歳 :

1847 = 38歳 : 勘定組頭格、

兄川路聖謨同様、抜きん出た能力によって、異例の出世をして、

万次郎帰国 1852 = 43歳 : 勘定組頭となり、

ペリー来航 1853 = 44歳 :

開国開港 1854 = 45歳 : \*老中阿部正弘に抜擢され、勘定吟味役を経て、

安政大地震 1855 = 46歳 : 従五位に叙され、信濃守を称して、下田奉行となり、

松下村塾 1856 = 47歳 : ハリスが着任すると、その応接に当り、

番書調所 1857 = 48歳 : \*幕閣を説得して、ハリスの上府や將軍謁見を実現、日米通商修好条約案の逐条討議には、岩瀬忠震とともに、全権委員として交渉し、ハリスをして'かかる全権を得たりしは日本の幸福'と言わしめて、

五ヶ国条約 1858 = 49歳 : 調印にこぎつける。直後の政変で、井伊直弼が大老になり、外国奉行創設とともに着任して、下田奉行を兼ねると、直弼に直談判して全権委任を取り付け、ロシアのプチャーチンや英仏使節と通商修好条約の交渉に当り、永井尚志とともに妥協して神奈川開港に傾くが、

安政の大獄 1859 = 50歳 : 將軍継嗣問題から、大老井伊直弼に疎まれ、小普請奉行に左遷され、軍艦奉行に転じる。

桜田門外変 1860 = 51歳 : 井伊直弼が暗殺されると、

生麦事件 1862 = 53歳 : \*外国奉行に再任され、海軍整備や留学生のオランダ派遣に尽力。町奉行に進むが、

8月18日政変 1863 = 54歳 : 將軍家茂が上洛して攘夷実行の勅旨を受けると、寺社奉行・勘定奉行と連署して反対し、將軍辞職を建議した上、小笠原長行による生麦事件賠償金の無断支払いや率兵上洛に従ったため、免職差控えとなる。

禁門の変 1864 = 55歳 : 外交に関わる人材難から、三度、外国奉行に任じられた後、勘定奉行公事方に転じ、関東郡代を兼任。

薩長同盟 1865 = 57歳 : さらに、町奉行に再任して、混乱する江戸の治安に当るが、

大政奉還 1867 = 58歳 : \*過労のため、病に倒れ、没した。